世代間の交流活動を目指す

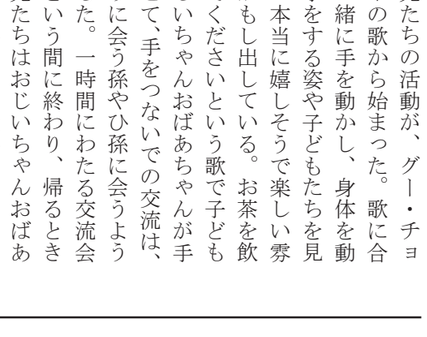
幼稚園と老人ホームを訪ねて…

●風と光と緑のなかの「風の谷幼稚園」

風の谷幼稚園は、美しい豊かな自然の木立に恵まれた日当たりの良い南西斜面に立ち、開放的な構造の校舎のなかで多くの子ども達が、楽しく学んでいます。

園児達が母親に手を引かれながら続々と集まってくる。園舎の入り口には、近所で取れた野菜の朝市が開かれていた。これは市販されないものを母親に安く提供しているとのこと、毎日の料理を担当している者にとっては大変有り難いものであろう。

園児達は、解放された板の間のフロアでは先生と一緒に縄跳びをしながら、飛べない子に一緒に教えている子、教室で押しくらまんじゅうをしている子、静かに絵を描いている子、お話をしている子などさまざまな活動をしている。それらの活動をしっかり見ている先生方の姿を見て安心した。その時音楽が流れてきた。園児達は素早く活動をやめホールに集まってきた。楽しいイベント「風の子集会」の開始だ。自由に遊んでいた園児達がクラスごとに整列して静かに待つ態勢ができている。「夢をもとう」という歌で集会が始まった。ピアノの伴奏に合わせて大きな口を開けて歌う声がホールに響きわたった。その後、母親ボランティアグループの人形劇「かにむかし」の劇中の変化に園児達の驚きの声や大きな笑い声がとびかっていた。人形劇が終了すると先生方の指示に従って整然と着席して先生のお話を聴いていた。これらの様子を見ていると風の谷幼稚園が目指す園児像、豊かな自然の中で、自分自身も自然の一部であると感じ取れるような感性を育て、子どもの心を豊かに育むことを柱に置き、よく食べて、よく遊び、よく寝ることの3つの教育を具現化しています。



できた！ 園児の創作活動

●家庭生活の延長を目指す特別養護老人ホーム「金井原苑」

自然の環境に恵まれた立派な施設である。自宅と同じような家具を配置し、高齢者の方々が今までの生活と同じように過ごせるように配慮した居室に約百名が入居しています。玄関を入ると周りには花が飾ってあり入りやすい雰囲気を持ったバリアフリーの施設である。高齢者の居室は、新型特養として、個人の生活が確保されるユニット型（個室）が主流を占める施設の中で、従来型の特養である2人室や4人室があった。これらの部屋で生活するほうが、他人を意識して生活するため、孤立することなく、刺激を受け協調性を生み、自立を促進するとも言われている。居室はゆったりとしたなかに、太陽が降り注ぎ暖かい雰囲気が漂っていた。この入居者がその人らしく、生き生きと、心豊かに生き抜いていけるように生活を支援する介護の方々の思いやりや優しさが各所に見られました。

●高齢者と幼稚園児の交流実践活動を見て

風の谷幼稚園と金井原苑の施設は隣接している。今回の交流活動は、3・4歳児の24名が先生2名に引率されて出発。金井原苑に到着するときちんと靴を脱ぎ並べて入った、玄関には苑長さんと担当の方がにこやかな顔で出迎えてくれた。3階のホールまでしっかりとした足取りで階段を進みホールに整列した。ホールには既に車椅子の方、ソファに座っている方など21名が集まっていた。高齢者の方々の、にこにことした顔はとても素晴らしい姿であった。園児たちの活動が、グー・チョキ・パーの歌から始まった。歌に合わせて一緒に手を動かし、身体を動かし拍手をする姿や子どもたちを見る目は、本当に嬉しそうで楽しい雰囲気をかもし出している。お茶を飲みに来てくださいという歌で子ども達とおじいちゃんおばあちゃんが手を合わせて、手をつないでの交流は、久しぶりに会う孫やひ孫に会うような姿でした。一時間にわたる交流会もあっという間に終わり、帰るときも、園児たちはおじいちゃんおばあちゃん一人ひとりに握手をしてお別れをして帰路についた。

このような高齢者と幼稚園児の交流活動が定期的に実施されていることは、金井原苑の苑長さんをはじめ職員の方々と風の谷幼稚園の園長先生と先生方の相互理解のもと、共に育つ、共に生きる、地域で見守るという共通の理念のもと実践されています。

金井原苑での交流活動

子育てに絵本を

親子で絵本の世界を味わってみませんか？

去る9月25日（木）麻生市民館視聴覚室において、全国の絵本や子育てサークル、幼稚園保育園の研修会、出版社の講演会などで人気の山崎翠先生をお招きし、地域子育て委員会主催の講演会が開催されました。

「子育ては思うようにはなりません」「子育てはもう一度人生を歩むこと」「まず抱きしめる、そしてお母さんのやさしい声をかけてあげるー待ってたのよ、よく来てくれましたねー」。こんな語り出しで講演が始まりました。

赤ちゃんは言葉が言えないし何も分かってはいない、そう思ってはいませんか？ 赤ちゃんは何でも分かっています。お父さんとお母さんが仲良く幸せでいると赤ちゃんも安心、けんかをしていると赤ちゃんも不安になります。

赤ちゃんが安心できる環境、雰囲気を作る、それが絵本で出来るんです。子育ての基本は安心、自信、希望という心を育てること。その心が子ども達が大地を踏みしめてしっかりと生きていくための基本となる。そういった心を養うために絵本があります。絵本には「繰り返し」「音の響き」「めくっていく」というような楽しさがあります。お母さんのやさしい言葉、笑顔、そして抱きしめて読んであげる、こういった愛の体験をたっぷりとさせてください。そして特に生きていくために必要な「豊かな言葉の力」を備えていけるように絵本を活用してほしいんです。

このようなお話をしながら、おすすめの絵本一つひとつについて丁寧な解説と実演をして下さいました。（先生おすすめの絵本一覧参照）

この講演会は概ね3歳未満の子を持つ父母を対象に行われましたが、当日は小さいお子さんをお預かりするサービスもあり、参加された約30名のお母さん達は最後まで静かな雰囲気の中で真剣に先生の声に耳を傾けていました。

★★★ 先生お薦めの絵本 ★★★

■0歳児（基本的信頼感）
わらべうた
「あかちゃんのうた」 松谷みよ子 童心社
「いないいないばあ」 松谷みよ子 童心社
「まんまるおつきさん」 わたりむつこ 福音館

■一歳児（発見・感動・共感）
「じゃあじゃあびりびり」 まついのりこ 偕成社
「にんじん」 せなけいこ 福音館
「ころころころ」 元永定正 福音館

■二歳児（動きの時代）
「のせてのせて」 松谷みよ子 童心社
「あめぽったん」 ひろかわさえこ アリス館

■三歳児（自己主張と活動性）
「アンガスとあひる」 マージョリー・フラック 福音館
「ぐりとぐら」 なかがわりえこ 福音館

■四歳児（仲間意識）
「スイミー ～ちいさなかしこいさかなのはなし～」 レオ＝レオニ 好学社
「でんしゃにのって」 とよたかずひこ アリス館

■五歳児（命の大切さに気づく）（冒険の世界）
「いちご」 平山和子 福音館
「ひとまねざるときいろいぼうし」 エ・A・レイ 岩波書店

■その他
「いいこってどんなこと」 ジーン・モデシット 富山房
「だいじょうぶ だいじょうぶ」 いとうひろし 講談社
「ことりはことりは木でねんね」 ション・スニ 童心社
「かみさまからのおくりもの」 ひぐちみちこ こぐま社
「がたんことん がたんことん」 安西水丸 福音館
「しょうぼうじどうしゃじぷた」 渡辺茂男 福音館
「かばくん」 岸田衿子 福音館
「おおきなかぶ」 内田莉莎子 福音館
「いちご」 平山和子 福音館
「しろくまちゃんのほっとけーき」 わかやまけん こぐま社

秋の味覚☆お芋ほりを楽しむ

柿生地区社会福祉協議会
地域子育て委員会

前日の雨はすっかり上がり、秋晴れに恵まれた10月7日（火）志村農園で芋ほりを楽しみました。当日は、午前10時に黒川駅前広場に集合した45人ほどの親子が、徒歩10分くらいの志村農園の畑でさっそく芋ほりを始めました。土の中から顔を出したお芋に思わず上がる歓声、親子で手を添えて掘り出すと、子どもは大喜びでした。お昼頃にはビニール袋いっぱいのお芋と子どもを両手に抱え、笑顔で帰路に着く親子の姿がありました。それぞれが楽しい思い出を作った一日になりました。

おっきなお芋がとれたよ！

芋掘りと落花生の収穫

柿生地区社会福祉協議会
障害者児福祉委員会

恒例のさつま芋掘り・落花生収穫の行事が、平成20年10月18日（土）に麻生区黒川にある「東（あずま）観光農園」で行われました。

当日は介添えのご両親やボランティア、先生方に連れられた多くの参加者が、大地の中から大きなさつま芋を掘り出し、その都度 歓声をあげて喜びをあらわしていました。

雄大な黒川の自然の中にある農園で、ゆったりと秋の収穫を楽しんでいました。

落下生は土の中にあるんだ！